

平成27年度農業大学校助成事業（実践力育成助成）事業

事業主体名 農業大学校農学部果樹科

1 目的

農業大学校果樹科では、これまでマンゴーで「かごしまの農林水産物認証（K-GAP認証）」の取得や加工品開発（マンゴーシャーベット、生キャラメル）に取り組んできた。しかしながら、果樹科農場のマンゴー樹は古いものは樹齢が18年生となり、樹高が高くなり、日を当てて結実や着色をよくする花つりや玉つり等の作業が非常にしづらい状況になってきている。また、着果位置が樹冠の周囲部分に広がり、樹冠内部に入って作業がしにくい状況にもある。そこで、樹齢が10年以上経過して高樹高化し、また樹冠内部の作業がしづらくなった樹の樹高切り下げ方法を検討する。

2 実施状況

(1) 樹高切り下げの実施

平成26年8月に農業開発総合センター企画調整部の農業専門普及指導員の助言指導を受けながら、①主枝分岐部近くまでの縮伐、②主枝上の太枝を一挙に間引き、③主枝上の太枝を数年かけて間引き、④慣行、の4区を設け整枝・せん定を実施した。せん定後の発生枝数及び葉数は④が最も多く、次いで③②①の順となった。今後、着果位置、着果数、収量、果実品質等について調査を継続する。

また、平成26年10月にマンゴー苗木12樹を新たに植栽した。担当学生は低樹高化に必須の防根シートの埋設方法や苗木の植栽方法を体験することができた。



(2) 現地調査の実施

平成27年1月にマンゴーのかごしまブランド産地であるさつま地区のマンゴー園を視察した。視察園のマンゴー樹は15年生で樹高が2m以上あり、学生らは農家の管理作業の苦労や低樹高化の重要性を学んだ。



3 今後の課題、取り組み

整枝・せん定と誘引を組み合わせることで樹高1m以下の低樹高で主枝、側枝の格付けされた一文字整枝樹を育てる